

令和3年度版 大野ですくすく子育て応援パッケージの実績について ～大野っ子の健やかな育ちを願って～

資料№1

《妊娠期》《乳児期》
赤ちゃんを望む人へ

取組み	事業の内容	令和3年度中の対応等	令和3年度実績(11月末)	特記事項(実績増加又は減少の要因)	担当課
不妊治療費助成	体外受精や顕微授精等の不妊治療費助成	県の助成事業が優先されるなど、制度が複雑なため、県市の助成制度をわかりやすくまとめたチラシを作成した。郵送での受付方法をHPで周知、申請時の負担軽減に努めた。	14組申請あり。うち、8組懐妊。	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、治療自体を延期するよう主治医より指示されるケースがあり、申請件数はコロナ前より減少傾向にある。	健康長寿課

産後のママを応援

産婦健診	産後1カ月健診費用5,000円を助成	妊娠届け出時の受診勧奨に加え、医療機関からも対象者へ受診勧奨していただくよう依頼した。	88名健診費用助成。	産婦のほぼ全数が受診している。	健康長寿課
母乳ケア	母乳外来費用3,000円/回を3回まで助成	必要な方の利用につながるよう、妊娠届け出時に加え、赤ちゃん訪問や育児相談会等の機会を捉えて周知を図っている。	18名、35回利用助成。	支援が必要な産婦の利用につながっている。	健康長寿課
	助産師の母乳相談、母乳指導	育児相談会と同時実施。予約制で助産師が個別対応を行った。	16回、44名利用。	支援が必要な産婦の利用につながっている。	健康長寿課
多胎妊産婦の支援	妊娠・出産の地機器習得相談会の開催、妊産婦同士の交流会の開催	助産師を講師として招き、子育て支援センターの協力を得て交流会を開催した。	1回開催、多胎妊婦1組、産婦3組の計4組参加。	昨年度と同様の参加数であった。	健康長寿課
妊婦の救急車利用	緊急時に安全に医療機関へ搬送	事業概要についてのポスターを作成し、医療機関へ配布。掲示を依頼し、産婦へ周知を図った。	妊婦情報事前登録者数74件うち、3件搬送。	妊娠届出数自体が減少傾向にあり、伴って届け出も減少傾向にある。	健康長寿課
家事援助・一時預かり	産後5カ月まで1時間の無料券10枚プレゼント	広報おおの9月号に記事掲載(利用者の声)	9人(62回)利用 ※一時預かり10回 家事援助52回	昨年度と同時期と比較すると利用回数は増加しているが、利用者数は減少している。	こども支援課

赤ちゃんの健やかな育ちのために

新生児聴覚検査	新生児聴覚検査費用5,600円を助成	妊娠届け出時の受診勧奨に加え、医療機関からも産婦へ受診勧奨していただくよう依頼した。	75名検査費用助成。	新生児のほぼ全数が検査を実施している。	健康長寿課
チャイルドシート	購入費の1/2を助成 ※上限1万円 ※使用者6歳未満	申請時の注意点などをチラシに記載するなど、分かりやすい周知に努めた。要綱を改正し、手続きのワンストップ化により納税証明書の提出が不要になった。	申請件数 64件 補助金額 525,600円	昨年度同時期と比較して件数に大きな変化はないが、補助金額が減少している。価格が低いチャイルドシートの購入が増えている	市民生活・統計課
ブックスタート	絵本の読み聞かせ、絵本・バックのプレゼント	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、絵本の読み聞かせをせずにプレゼントのみでも可能とした。保護者のみの参加を可能とした。市広報5月及び10月号に掲載し周知した。	新規対象者179人のうち103人が参加	R2年度は10月のみの実施だったが、今年度は例年通り5月と10月(計16日間実施)に実施できた。新型コロナウイルス感染が気になる保護者も多いよう参加者が少なかった。	図書館

知りたい情報を発信

取組み	事業の内容	令和3年度中の対応等	令和3年度実績(11月末)	特記事項(実績増加又は減少の要因)	担当課
知りたい情報を発信	LINE公式アカウントを開設	セグメント配信機能を活用し、子育て情報を希望する人に対し情報を発信している。	11/30現在 大野市LINE登録者5514人(うち子育て情報希望者759人) 子育て情報配信件数35件	広報紙等での登録呼びかけや発信情報の充実等により、登録者が増加した。 (前年同期のLINE登録者数2929人)	政策推進課 秘書広報室

《幼児期》

元気な育ちを応援

子ども医療費	医療費の窓口無料化	昨年度に引き続き、各種手続きの電子申請を推進することで保護者の利便性を図った。	受給資格者 4,036人 うち18歳未満児 3,938人 うち県内大学等通学者 98人	令和2年11月30日受給資格者数(下記)と比較し若干減少しているのは、人口減少の影響と思われる。 受給資格者 4,117人 うち18歳未満児 4,029人 うち県内大学等通学者 88人	こども支援課
インフルエンザ予防接種	予防接種費用1,000円/回を助成 ※1歳～中学3年生	医療機関に周知ポスターを掲示、広報おおのに掲載、予防接種日より(園配布)に掲載し助成内容周知を図った。	R3.10月末時点で申請0件。	インフルエンザの流行時期に備えて、11月以降、昨年並みの申請が見込まれる。	健康長寿課
歯の健康	幼児健診時のフッ素塗布 乳幼児期の歯みがき指導	今年度より、3歳児健診に加え、1歳6か月児健診においても希望者にフッ素塗布実施。育児相談会では保健師による集団指導、幼児健診では歯科衛生士が個別指導実施。	【フッ素塗布】1歳6か月児:100名中95名、3歳児:127名中118名 【歯科指導】育児相談会:55名、1歳6か月児:100名、3歳児:127名	幼児健診にてフッ素塗布を行わなかった児は、既に歯科医院でフッ素塗布を実施しているケースがほとんどであった。	健康長寿課

安心子育て・安心保育

在宅での子育てを支援	在宅での子育て応援(第2子以降1万円/月支給、所得制限なし) ※満3歳まで	新生児等への周知を徹底し、適切に実施した	新規申請者 23人 支給児童 59人 支給額 2,680,000円(6.10月支給分)	令和2年9月から新規事業として開始し、事業周知に努めている。県事業としては世帯年収360万円以下の世帯を対象としているが、大野市は所得制限を撤廃し、全世帯を対象として、低年齢児を家庭で子育てする世帯に支援を実施。	こども支援課
保育所・認定こども園	第3子以降保育料免除(0～2歳児対象)	世帯の状況に基づき適切に実施した。	通年で実施。国基準で保育料免除とならない児童56人の保育料を免除	3歳未満児の減少により対象者数も減少。 【国】保育園等に同時入所の第3子 【市・県】世帯の第3子	こども支援課
	第2子保育料免除(0～2歳児対象) ※所得制限なし ※R2.9月分から	世帯の状況に基づき適切に実施した。	通年で実施。国基準で保育料免除とならない135人の保育料を免除	3歳未満児の減少により対象者数も減少。 【国】生活保護世帯、非課税世帯 【県】世帯の第2子(年収約360万円未満相当世帯) 【市】世帯の第2子(所得制限なし)	こども支援課
	第3子以降の副食費(おかず代)の免除(3～5歳児対象)	世帯の状況に基づき適切に実施した。	通年で実施。国基準では副食費免除とならない108人の副食費を免除	【国】・年収約360万円未満相当世帯 ・保育園等に同時入所の第3子 【市・県】世帯の第3子	こども支援課
障害児保育	障がいのある子もない子も一緒に安心保育	例年どおり適切に実施した。	保育所、認定こども園14園の全園で障がい児の受入体制を整え、5園で10人の保育を実施	特になし	こども支援課
保護者会活動支援	活動経費の2/3を補助 ※4万円+世帯割(1,000円/世帯)	子育て中の親子で組織された団体(保護者会)等が地域での活動に要した経費の一部を補助する。	保育所、認定こども園、児童クラブ等の保護者会17団体が対象 申請件数 17件 交付決定額 1,551,000円	令和3年度 新規申請団体 1団体増 ・食育、地域交流、伝統行事活動にかかる経費の一部(補助率2/3 上限有)を補助	こども支援課

《学童期》
学校生活を応援

取組み	事業の内容	令和3年度中の対応等	令和3年度実績(11月末)	特記事項(実績増加又は減少の要因)	担当課
学校給食費助成	第3子以降の小中学校の給食費を無料化	取組に大きな変更はない。昨年度同様に、年度当初の申請だけではなく、年度途中での申請も随時受け付けている。	261件に交付決定 (小学校207件、中学校54件)	令和2年度実績は、265件に交付決定(小学校201件、中学校64件)であり、増減差はない。	教育総務課
給食への地元産米使用	小中学校の給食に大野市産米(コシヒカリ・いちほまれ)使用	※令和3年度新規事業のため、該当なし	4月から10月までの331.910俵全量について大野市産米(コシヒカリ)を使用。 ※11・12月も全量大野市産米(いちほまれ)と口頭で確認済。	昨年4月から6月はコロナによる休校で上半期の使用俵数は少なかったが、4月から10月まで全量大野市産米(コシヒカリ・いちほまれ)をしている。大野市産米の使用率については昨年・本年ともに100%を維持している。	農業林業振興課

夏休みの居場所づくり

図書館で宿題支援	図書館で夏休みの宿題支援(小学生対象)	7/27～8/13に各学年2日間の日程で実施した。読書感想文、工作、図書館のお仕事体験に加え、調理実習(本の中にでてくるおいしい料理)を行った。読書感想文の講師は元教員に依頼した。	1年生から6年生までを対象に実施し、79人が参加	R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により夏休み期間が短縮されたため、各学年1日だけの開催だったが、今年度は予定どおり実施した。6年生は夏休み期間中の登校日が増える傾向にあるため、参加者が少なかった。	図書館
子どもチャレンジ教室の開催	公民館で夏休みに子どもチャレンジ教室を開催(小学生対象)	令和2年度は新型コロナウイルス感染症により実施中止となった。参加申し込み方法に電子申請を取り入れ、8人が利用して申し込みした。	7月26日(月)から30日(金)において、小山・上庄・富田・阪谷の4地区13人が参加し、乾側地区を加えた5地区公民館で実施した。	令和2年度は新型コロナウイルス感染症により実施が中止となり、今年度が実質初年度となった。夏休みに子どもが気軽に参加できるイベントが数多くあったため、募集定員には足りなかったが、充実した内容で実施できた。(夏休みの宿題やふるさと学習等の実施)	教育総務課
学習場所無料開放	公民館で快適に宿題(中学生対象)	7/26(月)～8/27(金)の間で公民館開館日の23日間実施	9公民館合計39人	R2は、8/6～8/18の間で公民館開館日の8日間実施し、9公民館合計55人の利用があった。 R3実施に向けては、チラシに利用カレンダーのRコードを印刷したり、公民館玄関に利用できる日に張り紙をしたりと利用促進に取り組んだが、利用実績は減少した。	地域文化課
BG塾開催	海洋センターでBG塾を開催(小学生対象)	実施回数を2回に拡充して実施。 前期日程 7/26-7/30 後期日程 8/2-8/5(市内コロナ感染発生により1日減)	申込人数:前期19人、後期18人 延べ人数164人	これまで定員を超えた申込みがあったことから2回に拡充した。定員割れはしたものの、希望者全員を受け入れることができ、これまでより多くの子どもたちに「B&G」の体験を提供することができた。	スポーツ推進課

文化・スポーツ活動を支援

全国大会出場経費助成(教育活動以外)	スポーツの全国大会などの上場経費の助成 ※交通・宿泊費の1/2以内	例年どおり適切に実施した。	申請9件	新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの全国大会が実施されなかった。	スポーツ推進課
全国大会出場経費助成(教育活動)	小中学校の全国大会などの上場経費の助成 ※交通・宿泊費の1/2以内	変更点などは特になし。 例年どおり適切に実施している。	申請5件(夏季北信越大会1件、夏季全国大会4件) 北信越大会に7競技41名、全国大会に4競技18名が出場	中学校において、夏季の北信越大会や全国大会出場について申請があった。今後も冬季大会が実施されれば申請が増加する可能性あり。全国大会への出場などは児童生徒の努力の結果に伴うものであり、申請数増減に大きな要因はないと考える。	教育総務課
全国大会出場経費助成(文化活動関係)	文化活動の全国大会などの上場経費の助成	特になし	0件	全国大会出場者がいなかったため	地域文化課
スポーツ少年団育成支援	活動補助、スポーツ安全保険加入補助、体カテスト実施補助等	令和3年度に限定して新型コロナウイルス対策に係る消耗品・備品購入補助を実施する。その他は、例年どおり適切に実施している。	・スポーツ少年団傷害保険料補助 241,600円(800円×604名×1/2) ・スポーツ少年団育成(運営)補助 72,000円(3,000円×24団体) ・スポーツ少年団育成(指導者)補助 270,000円 ・(臨)コロナ対策補助 6団体申請	6月補正にて、新型コロナウイルス対策に係る消耗品又は備品購入補助金事業を計上。	スポーツ推進課
中学生ジュニアクラブ活動支援	活動経費を補助	補助対象団体に今年度から新たにバスケットボールクラブ(Axis)を追加	申請団体数3件(昨年度2件)	補助対象団体に今年度から新たにバスケットボールクラブ(Axis)を追加	スポーツ推進課

放課後の居場所づくり

取組み	事業の内容	令和3年度中の対応等	令和3年度実績(11月末)	特記事項(実績増加又は減少の要因)	担当課
放課後児童クラブ	市内5児童センターにおいて放課後の児童の預かりを実施	安全な放課後の居場所の確保と児童の健全育成 ※利用料無料(長期休暇及び土曜日の利用を除く)	延べ18,689人	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自由来館として利用できる学年を曜日ごとに指定し密集を避け、放課後児童クラブの利用児童の安全な居場所の確保に努めた。 ・昨年同時期と比較して、延べ人数が4,340人増加した。 【要因】・長期休業期間が平常日数に戻り、クラブ利用日数も平常に戻ったため。	こども支援課
放課後子ども教室	放課後の居場所づくり ※利用者増に対応	昨年度と同じく新型コロナウイルス対策を行いながら、適切に実施している。	小山地区、乾側地区、上庄地区、富田地区、阪谷地区で実施 延べ20,522人	昨年度と比べて新型コロナウイルスの影響が少なかった。また、放課後子ども教室の登録者数が増加したため。	生涯学習・文化財保護課

自然ふれあい探検隊

自然ふれあい探検隊2021	魅力あふれる豊かな自然環境を探検(体験的に学習)する環境教室の実施	夏休み期間中の事業は、市民団体等が実施する類似事業と重複を避けるため、日程調整をした。	実施回数:3回 参加者数:児童のべ56人 保護者のべ52人	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、4回予定していた事業のうち、1回を中止したほか、定員を少なくするなど対応したが、昨年度(1回予定がコロナで中止し、0回)よりも多く開催したため、参加者が増加した。	環境・水循環課
---------------	-----------------------------------	---	-------------------------------------	--	---------

《遊び場》

大野っ子の遊び場

木の薫る遊び場づくり支援	認定こども園等に国産材玩具の購入を補助	※令和3年度新規事業のため、該当なし	8園からの交付申請があった。 ※残り2園からも申請の意向は確認済み。	※令和3年度新規事業のため、該当なし	農業林業振興課
奥越ふれあい公園	木製遊具をリニューアル	工事施工、工事完了	R3.6月に供用開始	特になし	建設整備課
道の駅「越前おおの 荒島の郷」	キッズコーナーの整備	特になし	キッズコーナー運営開始	特になし	産業政策課
エキサイト広場総合体育施設	アリーナなどの無料開放	夏期・冬期2回実施 夏期日程:7/1~8/31 冬期日程:12/20~2/28 冬期よりランニングコースのみ開放とし ヘルスウォーキング参加者へのポイント付与を追加	夏期無料開放利用者数 637人	令和2年夏期無料開放では623人の利用で微増である。施設無料開放が市民に周知されつつあり、ヘルスウォーキングなど健康づくりが浸透しつつある。コロナ禍ではあるが、今後も増加が期待できる。	スポーツ推進課
市内商店街等(ショッピングモールVIO)	親子で行きたくなる商店街の取り組みなどを支援	特になし	・モールウォーキングの実施 ・SNSや情報発信拠点を活用した情報発信	特になし	産業政策課

《若者・保護者》
地域が応援

取組み	事業の内容	令和3年度中の対応等	令和3年度実績(11月末)	特記事項(実績増加又は減少の要因)	担当課
世代を超えた交流	集会所などを利用して世代間交流事業を行う自治会などに補助	特になし	0件	事業申請がなかったため	地域文化課
安全安心な環境	若者・親子の防災キャンプ体験	予定通り実施	市内の親子や若い世代62名	特になし	防災防犯課
	防犯カメラ設置費用を助成	地域の要望により設置	2自治会に助成を行い、防犯カメラを2台設置	特になし	防災防犯課

新婚・子育て世帯の住環境を支援

低所得者の婚姻に伴う新生活に対する支援	住宅賃貸費用又は引越費用を助成	令和3年度新規事業として開始。新婚世帯に事業案内を送付する等周知の徹底に努めた。	新婚世帯からの事業問合せ、相談を随時受付中。 相談件数:10件 申請件数:0件	補助金の申請時期は令和4年2月末に集中する見通し。	こども支援課
子育て世帯や新婚世帯に対する空き家暮らしを支援	空き家の購入とリフォーム費用を助成	特になし	申請3件中子育て世帯1件	今年度より子育て世帯に補助を拡充したため制度の利用につながった。	交通住宅・まちづくり課
3世代同居・近居・新築住宅取得を支援	・3世代同居・住宅リフォーム費用を助成 ・3世代同居・近居・新築住宅取得費用を助成	特になし	3世代同居 新築4件 Uターン近居 新築1件 3世代リフォーム 5件	特になし	交通住宅・まちづくり課

職場が応援

子育てと仕事を無理なく両立	働く人にやさしい企業を支援 (子育て世代にやさしい企業の認定)	「働く人にやさしい企業」については、働き方改革に1年間取り組む必要があり、R2はコロナ感染症拡大の中、取り組むことは困難であるとし、新規募集を中止した。R3～は基準を満たしていれば「認定」するよう制度を簡素化し、市認定後は、国や県の認定取得に向け支援していく形とした。 「子育て世代にやさしい企業」は、R2同様に実施。	働く人にやさしい企業 8社認定 子育て世代にやさしい企業 9社認定 (うち、5社は両認定取得)	特になし	産業政策課
	働く人にやさしい企業を支援 (子育てサポート企業として国や県の認定を受ける企業を支援)	特になし	年度末に、大野商工会議所より実績報告予定	特になし	産業政策課
	働く人にやさしい企業を支援 (男性従業員の育児のための休暇取得などに取り組む企業を支援)	特になし	・育児休業等の代替要員雇用補助 交付実績:1事業所3名(1,977千円) ・男性従業員の育児休暇取得補助 交付実績:2事業所2名(200千円)	特になし	産業政策課
起業・創業を後押し	・チャレンジする事業者を支援 ・女性の創業を支援	事業の対象範囲を大野市立地適正化計画で位置づける都市機能誘導区域の空き店舗等に限定した。 Vioの空き店舗を対象とした店舗改修費用の補助を追加。	実績なし	R3年度も新型コロナの影響が続き、創業に向けた機運が上昇しづらい状況であること	産業政策課

《男性の育児参加》
ママとパパで協力子育て

取組み	事業の内容	令和3年度中の対応等	令和3年度実績(11月末)	特記事項(実績増加又は減少の要因)	担当課
男女共同参画「子育て講座」	大野っ子ママもパパも一緒に子育て講座開催	特になし	11月23日に「おとう飯始めよう！秋の簡単料理教室」を実施 親子5組12名参加	令和2年度は2月に実施	総務課
支援センター主催講座	子育て支援センターで「お父さんと遊ぼう」の開催	①8/21(土):新型コロナウイルス感染拡大のため、中止(講師:おっとふあーざー館氏)。 ②10/16(土):新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で開催(お父さんと運動会)。	お父さんと運動会 19組(父19、母19、子20)参加。	お父さん参加促進のための講座を2回企画し、うち1回は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となったが、お父さんと運動会は体育館で実施し、両親と子が参加したため、令和2年度と比較し参加者数が増加した。	こども支援課

《子育て応援機関(きめ細かな支援)》

取組み	事業の内容	令和3年度中の対応等	令和3年度実績(11月末)	特記事項(実績増加又は減少の要因)	担当課
急な病気の時も安心	休日急患診療所の小児救急診療	特になし	482人	特になし	健康長寿課
子育て相談や子育て親子の交流の場	地域子育て支援センターでの子育て相談など(月2回 土曜日半日開所)	(継続実施) ・R2.6月～子育て家庭の利便性の向上(土曜開所/月2回) ・R3.1月～オンライン子育て相談の開始	利用者数:保護者2,735人、こども2,513人、合計5,248人 (うち土曜日の利用者:保護者179人、こども208人、合計387人(うち父親利用者47人))	・10月16日(土)に「お父さんと運動会」を開催し、19組の父母と子の参加があった。 ・父親の利用者が増加した(土曜日等)。 ・市LINEセグメント配信、市報を活用し広報に努めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、R3.8.6～9.12までイベントのみ中止としたため、利用者(見込)が減少した。	こども支援課
	子育て交流ひろば「ちっく・たっく」での子育て相談など	(継続実施) ・子育て家庭が使用しやすい環境を整え、利用促進を図った。	利用者数:保護者1,531人、こども1,711人、合計3,242人	・行事の事前告知や実施状況、消毒などの対応等について、事業所独自のLINEやインスタ、市報を活用し広報に努め、コロナ禍でも、利用しやすい環境を整えた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、R3.8.6～9.12までイベントのみ中止としたため、利用者(見込)が減少した。	こども支援課
ワンストップ相談窓口	妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援	妊娠期から子育て期までの様々なニーズに対し、ワンストップで切れ目のないサポートを行う。	妊娠期から子育て期までの特に気がかりな事例については、重点的に支援を行っている。	保育所等への巡回や育児相談会での子どもの様子を確認し、月1回定例会にて関係課が連携し、状況把握や支援方針の検討を行い、継続支援を行った。	こども支援課 (健康長寿課)
専門的な療育支援、発達・発育相談	児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業の実施	発達に関する相談や指導、児童発達支援などのサービスを提供することで、専門的な療育支援を行った。	延利用者数:11月末実績 576人 相談件数:11月末実績 222人	障害児通所支援の利用者数は減少しているが、センターでの相談件数が伸びており、センター利用総数としては増加した。	こども支援課